

地域活性化という「遊び」

26

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいくなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。



出発の朝
午前6時30分。
いつもは
いくら起こしても
起きないくせに、
この日ばかりは
自分達で
起きて来ました。
神戸港まで
約80キロの
道のりです。

「いつてきまーっす」

「いつてらっしやーっす」

うっすらと霧がかかる春の早朝

元気な子供達の大きな声が

山間の小さな村にこだまします。

たくさん荷物を積んだ

自転車が3台

田んぼに沿って曲がりくねった

坂道を下りていき

やがて見えなくなりました。

今年18になる長男が

この春中学を卒業する次男と

小学校を卒業する三男を引き連れ

香川県の友達の所目指して

旅に出ました。

往復の走行距離260キロ

約1週間の旅です。

最初は長男と次男の二人で

行く予定をしていたのですが

三男が突如として参加を表明。

今まで往復100キロを数回経験し

た長男次男に比べ

走っても隣町まで15キロ程度の経験

しかない三男の参加には

最初家族全員反対していたのですが

本人が「絶対できる」「やりたい」

と自信満々に言いますので

僕がいろいろ考えた末

OKを出しました。

思い起こしてみれば

この三男は3歳の頃から

上の二人を追いかけて

山に登ったり基地を作ったり

川で遊んだり刃物を使って弓矢を作

ったりと

いつも年上と同じように

遊んでいました。

長男と三男は

6つも歳が離れているのですが

たいていのことは

同じようにこなしていたのです。

ですから

「あいつらができることは俺にもで

きるよ」

というのが今も三男の思考回路。

ある意味物事を「難しい」と考えた

ことがないのかもしれませんが。

昔こんなこともありました。

長男が中学で野球部に入っ

て

試合前にバッティングセンターへ

特訓に行きました。

当時三男は4年生。

野球は田んぼで兄弟と遊びでやるく

らいで

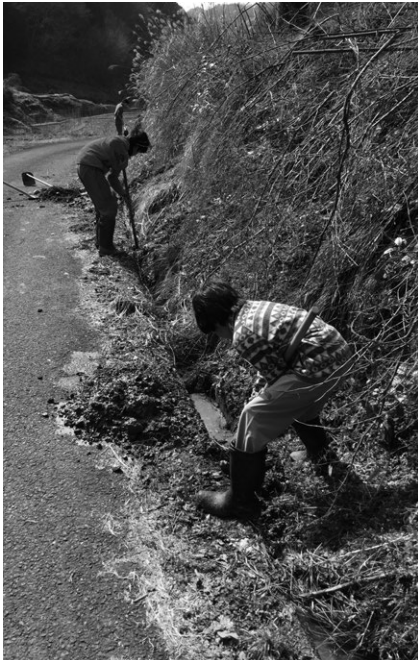
本格的に習った経験なし。

それでも「やりたいやりたい」と

うるさいのでやらせてみますと

物事を「難しい」とは考えない 子供のチャレンジ

移住当初から
子供は大人と同じ働き手の一人として
全てに関わってもらっていました。



小学校卒業の日。
三男がよく押しかけてテレビを
見せてもらっていた集落の
おばあちゃんも大喜びでした。

旅行で集落の共同作業に
出られないということで
事前に作業を済ませて
から出かけました。
高齢化が進み、
こういう作業は
彼らの協力無しでは
不可能になってきました。

次男と三男（当時4歳）。
こんな太い竹を二人だけで
山から切り出してきて
遊んでました。
危険という言葉を
知らないから
できたのですね。



長男が空振りするような
球速120キロのボールを
ポンポンといともたやすく
打ち返してしまい
みんなびっくり。
長男は学校で監督から
技術をいろいろ教えてもらって
ああしなければならぬ、こうしな
ければ打てないと
どうしてもいろいろ難しく考えて体
が硬くなってしまっているのか。
なかなかボールに当たりません。
それに比べ三男は
「田んぼでやってる時みたいにボー
ルが来たら打ったらええのやろ」

という感じでニコニコしながらポン
ポン打ち返します。
何歳になったからできる
何歳だからできない
というのは
僕たち大人がただ思い込んで
勝手にそうだと決め付けてしまっ
ているのではないのでしょうか？
自分の子供も含め
長年いろいろな子供を
観察してきましたが
子供というのは僕たち大人と違って
できるとわかっていないことには
それほど興味を示しません。
大人が余計な手出しを

しないでいると
少し難しいことに興味を持ち
何度も何度も挑戦して
それをクリアすれば大喜び。
しかししばらくすると
それに飽きてしまっ
また新しいことに
チャレンジします。
しかし僕たち大人はどうでしょう。
気がつけばあたりさわりのない
成功するのがほぼ確実なことにしか
手を出さなくなっ
結局成功したのか失敗したのか
よくわからないようなことばかり。
難しそうなことや
リスクがあるようなことを
「やってみなければわからない」と
言おうものなら
いい歳こいて何言っただと
外からも身内からも
いろんなものが飛んできます。
子供にとって
挑戦は勝っても負けても大成功。
少々難しいことでも
子供が「できる」「やりたい」と言
うなら
僕は大人としてできる限りやらせて
やるようにしています。
そして
結果を恐れず行動する勇気を
今の僕に少しでも分けてもらえたら
と思っています。